



写真-3 寝屋川導水路(前方は太間排水機場)

——排水機場運転の効果はどうでしょうか?
太間排水機場の運転により、市街化した上流低平地の浸水被害は明らかに軽減

interview



太間排水機場長 渡辺 竜馬さん

30年代から高度成長期に低平地の都市化が進み、寝屋川本川の洪水を軽減する放流施設が必要となりました。太間排水機場は、寝屋川上流域からの洪水を、万博関連事業として淀川から寝屋川に浄化用水を導入する目的で昭和44年に建設された寝屋川導水路を経由し、直接淀川に排水しています。これが寝屋川上流域洪水の分水です。(図-2)

——寝屋川導水路の流れは利用目的に応じて2方向に流れているということでしょうか?

浄化用水導水時、寝屋川導水路の流れは淀川から寝屋川へと流れていますが、太間排水機場運転時はその逆の流れとなります。

——低平市街地の浸水対策はどのように行われていますか?

寝屋川上流域の内、淀川に近い地域は元々雨水が河川に排水されにくく、寝屋川導水路を経由して太間排水機場へと流れています。このが寝屋川上流域洪水の分水です。(図-2)

——太間排水機場の運転と分水の仕方について教えて下さい。

寝屋川本川に設置された桜木水門の水路が溢れそうになると、地元寝屋川市からの要請を受け、市街地の雨水を寝屋川導水路に取り込み、淀川に排水するための運転を行います。さらに、寝屋川本川の水位が上昇すると、寝屋川本川に設置された桜木水門(写真-2)を閉鎖して寝屋川上流域を下流域から分離し、上流からの洪水は全て寝屋川導水路(写真-3)を経て太間排水機場から淀川に排水します。

——排水機場運転の効果はどうでしょうか?
太間排水機場の運転により、市街化した上流低平地の浸水被害は明らかに軽減されています。



写真-1 淀川左岸の太間排水機場 ※大阪府パンフ写真に説明追加



図-1 太間排水機場位置図 ※国土地理院地図に説明追加

「水が語るもの」では2020年12月発行の第21号から排水機場の役割や浸水被害軽減効果、運転管理上の課題等について排水機場の管理者、操作関係者から直接お話を伺い、読者の皆様に紹介しています。

第2回目は淀川中流左岸の寝屋川市太間町に設置されている大阪府管理の太間排水機場を訪問しました。

太間排水機場(写真-1、図-1)は、淀川左岸堤防沿いの寝屋川上流域に位置しています。当地は、「日本書紀」に記された仁徳天皇による「茨田堤」築造時の難所2箇所の内の1箇所

「杉子断間」に当たる所との言い伝えがあり、この茨田堤が記録に残ります。(尚、もう1箇所の難所は「強頭断間」と呼ばれ、その場所は大阪市旭区千林付近と言い伝えられています)その後、豊臣秀吉により現在の淀川左岸(南岸)の枚方市下流に「文禄堤」と呼ばれる連続堤防が建設されましたが、それ以前の淀川は、当地から内陸に向ても流路があり、寝屋川の支流である古川がそのなごりとされています。太間排水機場近くの淀川堤防上には、淀川改修百年を記念して昭和49年に茨田堤の碑が設置されています。

太間排水機場は、大阪府による寝屋川流域総合治水対策の一環として寝屋川上流域の洪水を淀川へ直接放流する計画、これを分水と呼んでいますが、その中核施設として、淀川上流域の雨水排水対策も担つており、この2つの目的で運転されています。

——太間排水機場の役割について教えて下さい。

太間排水機場は、大阪府による寝屋川流域総合治水対策の一環として寝屋川上流域の洪水を淀川へ直接放流する計画、これを分水と呼んでいますが、その中核施設として、淀川上流域の雨水排水対策も担つており、この2つの目的で運転されています。

——太間排水機場運転管理でご苦労されていて、どのようなものですか?

寝屋川流域は大部分が低平地で、排水先が大川に合流する京橋口1箇所に限られ、浸水被害が発生しやすくなっています。しかししながら、依然として寝屋川上流域の洪水を淀川へ直接放流する計画、これを分水と呼んでいますが、その中核施設として寝屋川上流域の雨水排水対策も担つており、この2つの目的で運転されています。

——寝屋川上流域洪水の分水とはどのくらい集中豪雨の影響が大きいため、休日・夜間を問わず迅速な対応が求められます。ポンプ操作の遅れが許されないため、4班20人の体制により、毎月1回実機で実践的なながらの模擬運転を行うなどメンバーのスキルアップに取り組んでいます。はじめての排水機場勤務で、ミスが許されないという緊張感がありますが、地域を守っていることを実感しています。